

2021年度 教職ガイダンス

教職教育部門 教授 井上 健

- 1 教職課程とは何か
- 2 教師という仕事の「やりがい」と「たいへんさ」
- 3 教職課程の仕組み
- 4 教職課程を履修する上での「現実的」な難しさ
- 5 本ガイダンスの後にしてほしいこと
- 6 スタッフの紹介
- 7 質疑応答

0

1 教職課程とは何か

- ①教員免許（中高の数学、理科等）を取得するための課程。
- ②「教員」になるためには教員免許が必要。
- ③「学科（124単位）」を卒業するための勉強とは別の「プラス・アルファ（69単位）」の部分である。
- ④東京都市大学では、2021年度は6名（専任・非常勤の合計、新卒・既卒を含む）が教員になっている。

＊「教員になるつもりはないけど、資格はほしい・・・」
→四年間でできることは限られていますので、よく考えて「選択」しましょう！

1

2 教師という仕事の「やりがい」と「たいへんさ」

- ①「やりがい」
→未来を担う子ども・若者を育てていく仕事。
→自分の専門性・個性を発揮できる。
- ②「たいへんさ」
→教壇に立ったその日から「一人前の先生」であることが期待される。
→多方面からさまざまなことを要求され、常に多忙である。

＊大学の教職課程には、各自治体・学校現場が求める「教員として最小限必要な資質・能力」を身につけさせることが求められている。
→新入生のみなさんも、3年後（4年前期の教育実習）には、独力である程度の「授業」や「生徒指導」ができる力をつけることが必要。

2

3 教職課程の仕組み

（学修要覧の「教職課程」の頁をよく読んで、理解すること）

- ①取得できる「免許」は学科によって異なる。
- ②教職課程科目の他に「日本国憲法、体育、外国語コミュニケーション、情報機器の操作」に関する科目の単位が必要（教育職員免許法施行規則66条の6の既定）。
- ③「教育の基礎的理解に関する科目等及び各教科の指導法」において「科目区分ごとに必要な単位数」を取得し、かつ、「合計」においても「最低取得単位数」を上回る必要がある。
- ④「教科に関する科目」では、同じ免許種であっても、所属する学科や入学年次によって、「履修すべき科目（教職科目として認められる科目）」が異なるので注意が必要。

3

4 教職課程を履修する上での「現実的」な難しさ

- ①教職科目は「平日5限、水曜3～5限、土曜1～4限」の開講が多い。
- ②1回の授業に対して「4時間の予習復習」が不可欠。
- ③独力で「授業」や「生徒指導」ができるようになるためには、漫然と授業に出席しているだけではダメ！
- ④カリキュラムは「学習の積み重ね（学びの熟成）」「学問の系統性」を前提としている。
→ある年次に、同時に、多数の科目を履修しても、消化不良を起こしてしまう。
- ⑤学外実習系の授業（「介護等体験」「教育実習(1)(2)」）は、学科の授業、卒業研究、就職活動などとバッティングする可能性が大である。

→他の「やりたいこと」との両立が困難。
「教職」を選ぶか、別の「やりたいこと」を選ぶか、選択を迫られることになる。

4

5 本ガイダンスの後にしてほしいこと

- ①「学修要覧（教職課程の頁）」を熟読すること。
→教員をめざす者としての「読解力・理解力」が試されます。
- ②どうしてもわからないことは、教育支援センターの教職課程担当の職員や教職教育部門の教員に質問すること。
- ③ポータルサイトやWebclass、あるいはメールでの連絡を見逃さないこと。
- ④ガイダンス等に必ず出席し、書類提出のめ切を守ること。
→大学では、ガイダンスへの無断欠席や書類の未提出などは「資格なし」と判定されます。
→ポータルサイトやWebclass、メール等を定期的に確認する習慣を身につけるとともに、情報交換する仲間をつくりましょう。
(多様なセーフティネットの確保)

5

6 教職教育部門のスタッフの紹介

共通教育部 教職教育部門 教員

- ・井上健（1年次科目「教育原論、教職論」等担当、tinoue@tcu.ac.jp）
- ・高橋哲男（2年次科目「数学教育法」等担当、ttakaha@tcu.ac.jp）
- ・渡邊大輔（2年次科目「理科教育法」等担当、dwatanab@tcu.ac.jp）
- ・殿村洋文（2年次科目「技術教育法」等担当、tonomura@tcu.ac.jp）

教育支援センター 教職課程担当 職員

- ・SC 萩原理可、谷出杏介（sckyoumu@tcu.ac.jp）
- ・YC 石井奈緒子（yckyoumu@tcu.ac.jp）

*メールを送る際は@は半角にすること

6

7 質疑応答 <よくあるQ&A>

- Q1. 私の学科では数学・情報の免許しか取れません。理科の免許をとりたいのですがダメですか？→A1.取れません。
- Q2.私の学科では数学・理科の免許がとますが、両方とれますか？→A2.制度的には可能です。ただし、かなりハードになります。
- Q3.単位数が少ないので、高校免許だけ取ろうと思いますが。→A3.制度的には可能です。ただ、教員採用試験を考えれば、現実的ではありません。
- Q4.TAPなどとの両立は可能ですか？→A4.制度的には可能ですが、TAPのための準備教育などと教職課程の授業（予習復習や実習等）とではバッティングすることが多く、4年間での両立は難しいのが実情です。
- Q5.学科の必修科目と教職の必修科目が同じ時間帯に開講されるのですが、どうしたらよいですか？→A5.卒業しないと教員免許も取得できないので、学科の科目を優先しましょう。2年次や3年次で、教職の1年次科目を履修できます。ただし、「学習の積み重ね（学びの熟成）」「学問の系統性」の観点から、一度に履修しても消化不良になりますので注意が必要です。
- Q6.卒業までに免許に必要な単位を取れなかったら、どうなりますか？
→A6.免許は取得できません。ただし、卒業後に「科目履修生」や「教職課程を有する通信制大学」で学ぶなどして、「不足する単位」を取得し、教育委員会に個人で申請すれば、免許は取得できます。

7